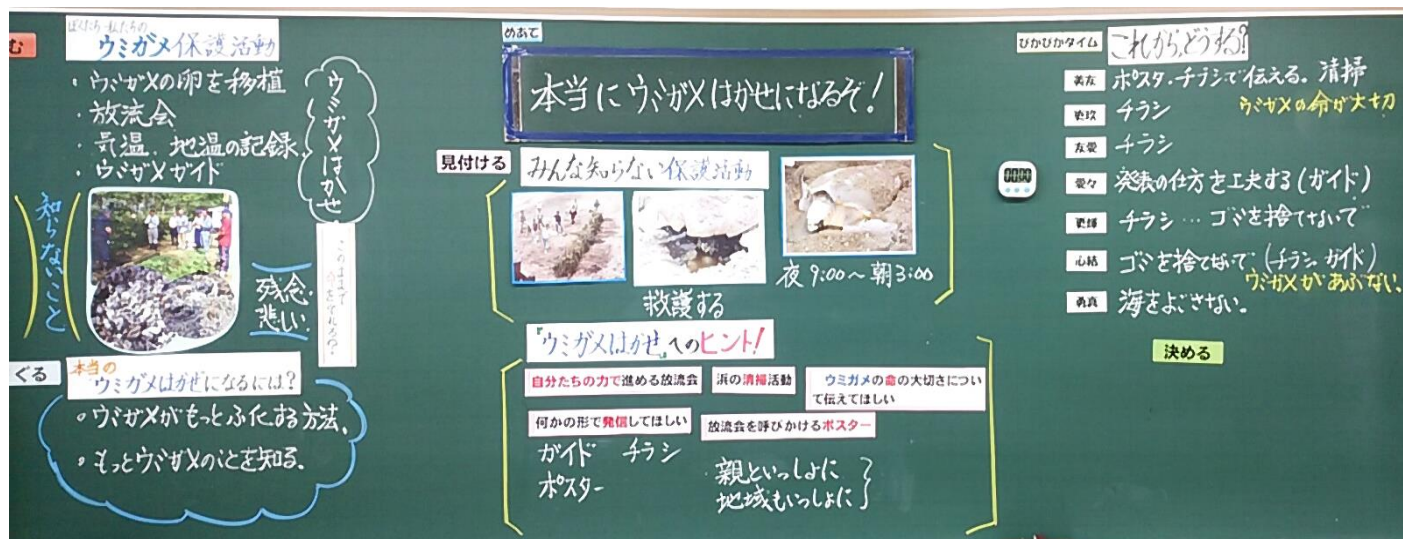


## ～題材：責任をもってウミガメの保護活動に取り組もう！～

【ねらい】

ウミガメ保護員の方の話から、日頃の保護活動の重要性に気付かせ、保護員（地域）の一員として責任をもって主体的に行動しようとする態度を育てることができるようにする。



【写真①：板書】

## 【学習過程（略案）】

6月18日（月）5時間目

| 過程   | 主な学習活動                                                                                                                                                     | 指導上の留意点                                                                                                    |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| つかむ  | 1 これまでの保護活動について話し合う。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・卵の移植をしているね。</li> <li>・総合の「ウミガメはかせになろう」で調べ学習をしているね。</li> </ul>                              | ○ これまでの保護活動を想起できるように、写真等を教室に掲示しておく。                                                                        |
| さぐる  | 2 孵化しなかった卵の写真を基に、本当のウミガメはかせになるために必要なことは何かについて話し合う。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとウミガメについて知っておきたい。</li> <li>・ウミガメと関わっていかないといけない。</li> </ul> | ○ 孵化しなかった卵の写真を提示することで、命を守ることに對しての責任感を感化させ、保護活動への必要感を高める。                                                   |
| 見つける | 3 ウミガメ保護員の方からの話を聞く。<br>4 ウミガメはかせになるために、どうしていか話し合う。<br>(1) 自分で考える。<br>(2) 自分の考えを発表したり、友だちの考えにアドバイスしたりする                                                     | ○ ゲストティーチャーを効果的に活用するために、担任からのインタビュー形式で進める。<br>○ ゲストティーチャーの話などから、自分の役割や責任、自他のよさを考えた仮の意思決定やアドバイスができるように指導する。 |
| 決める  | 5 ウミガメはかせになるためにこれからどうしていくかを意思決定する。                                                                                                                         | ○ 実現可能なめあてになるように、適宜指導する。                                                                                   |

めあて ぼくたち、わたしたちが本当のウミガメはかせになるぞ！

## 指導のワンポイント

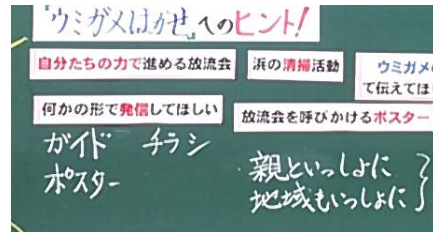
### ☆ 本当のウミガメはかせになるための工夫

#### ○ 事前の工夫

- ・ 知らない保護活動の写真の準備（ウミガメ保護研究会より写真②・資料）
- ・ ウミガメ保護研究会の方にゲストティーチャーとしての打ち合わせ
- ・ 事前にウミガメ博士になるための取り組みを予想（写真③）



【写真②：子どもが知らない保護活動】



【写真③：ウミガメ博士になるための取組】

#### ○ 本時の工夫

- ① ウミガメ保護研究会の方に事前に打ち合わせした内容をインタビュー式で話を聞く。（写真④）
- ② ウミガメの命の大切さや松ヶ浦の自然を守るために自分ができることを考え、話し合う。（意思決定）
- ③ 意思決定したことをがんばりカードに記入する。



【写真④：ウミガメ保護研究会の方】

#### ○ 事後の工夫

- ・ 本時で学んだことを、学級活動(1)の話合いに生かすために教室に掲示（写真⑤）
- ・ 意思決定したことの実践活動は、ウミガメの放流会に合わせて実施することにした。



【写真⑤ウミガメの保護員の一人としての意識付け】

## 成果

- ウミガメ保護研究会の方から直接話を聞くことで、「自分たちがウミガメの命の大切さを伝えていかないといけないんだ」「自分たちが松ヶ浦の海を守って行かないといけないんだ」という必要感がより高まった。

#### 【子どもたちの保護活動の取組】

「自分たちで放流会を運営する」「清掃活動」「チラシ・ポスター」など意思決定した。

## アドバイス

- ゲストティーチャーともっと綿密な打ち合わせが必要と思った。45分間の中でのどのように話をしてもらうか実際に教室に来てもらってしたほうがよかった。教師とゲストティーチャーが同じイメージで進めることが大事なことだと感じた。
- 限られた時間内でゲストティーチャーの思いを子どもたちに伝えるには工夫が必要。（授業が終わった後に、「これも言えばよかった」と言われ、もったいないと感じた。）